

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス 8(エイト)			
○保護者評価実施期間	2025年 04月 01日		～	2025年 04月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27人	(回答者数)	25人
○従業者評価実施期間	2025年 04月 01日		～	2025年 04月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12人	(回答者数)	12人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 05月 09日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多機能事業所としての特色を活かして、「センサリープレイ」や「スヌーズレン」などの新しい試みを行っています。毎月の活動に関しても、それぞれの子どもの現在のキャパシティに合わせて濃淡をつけて取り組んでいます。	壁面製作など机の上の活動や SST、LST、体幹トレーニングなどの体を動かしての取り組みを、ひと月のなか、一週間のなかで、子どもたちのそれぞれの利用日を考慮してバランス良く配置しています。	公園遊びやお買い物体験などの他に、お出かけイベントや、公共交通機関を利用した社会性のある活動が増えてゆくことで、より取り組みの幅が広がってゆくのではないかとかんじています。今後そのような企画をしてゆきたいと考えています。
2	施設は音楽スタジオとしての機能も持ち合わせているため、レコーディングやリハーサルを複数人数で行うための部屋、機材、設備も充実しています。	各楽器に精通した外部のミュージシャンを招くことにより、専門的な知識や技術をサービス提供時間内に子どもたちに提供することができます。	いち事業所内だけではなく、区の福祉サービス事業所全体に、音楽による地域での活動を広げてゆく取り組みに、力を注いでゆきたいです。
3	自己選択の観点からも、子どもたちの「心が動き出すまで待つ支援」を大切にしています。無駄な声がけは排除して時間が許す限りゆったりと見守ることを心掛けています。	子どもたちが自分の意思(思い)で行動できたときには、たくさん褒めることで達成感を感じてもらったり、成功体験を積み重ねてゆくことで、自己肯定感を高めてゆけるような支援を行っています。	子どもたちが動き出すまでゆったりと見守る支援を行うためには、スタッフの忍耐力やセルフコントロールも必要になってくることから、研修や勉強会によりスキルを身につけてゆることが大切になると考えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	いち事業所で定員数も限られていることから、希望するすべての子どもたちを受け入れることができない。利用に制限を設けることが心苦しい。	事業所を増やしてゆくことを考えているが、児童指導員の確保が困難。また、人材の育成を並行して行っゆかなければならない。	M&Aの可能性も考えてゆく。
2	現在、児童発達支援と放課後等デイサービスの事業所しか運営していないため、今後18歳以上に成長してゆく利用者の受け入れ先を、他事業所に委ねなければならない。	放課後等デイサービスを卒業した利用者の受け入れ先である、生活介護事業や作業所の分野にも、法人として事業を拡大してゆかなければならない。	グループホームの経営も視野に入れてゆく。
3	法人としての他機関への事業の拡大が遅れているために、相談支援専門員や移動支援事業のヘルパーの手配が利用者のニーズに追いついていない。	相談支援事業所や訪問介護事業所を早期に開業して、現在それらを必要としている利用者、保護者の方々に福祉サービスを提供してゆきたい。	こども食堂の経営にも着手してゆきたい。